

7 指導計画 全2時間
別紙「指導計画」参照

8 本時の構想<第1日目> 1/2時間(45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 1/2時間目)

道徳的価値「相互理解, 寛容」の本質(相手の話を聞いたり, 相手の事情を推し量ったりして理解しようとする事, 相手の言動が自分の期待と異なったときに広い心で受け止めること)や意義(「相互理解, 寛容」の大切さ)に着目し, 多面的・多角的に考えたり, 経験を基に考えたりするという「見方・考え方」を働かせ, 哲学対話の問い(学習課題)を主体的に設定することができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 教材の前半部分を知り, 自分がよし子だったらどうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹が立つよな。 ・約束を破られたら怒るのは, 当たり前だよな。 ・私だったら, 文句を言って, すごく怒ります。だって, 電話をすって言っておきなから, ずっと待っていたのに連絡をくれなかつたからです。 ・腹が立つと思う。でも, 何かあったのかわからない。気持ちもあります。 ・私だって怒って, えりさんが何言っても無視をせよ。だって, 誘ったからで。 ・分かります。だって, 連絡するねって言っていたのに, 連絡もなくて, 出掛けているのか頭にくると思います。 ・気持ちに, 分かります。私も前に, 友達に一緒に帰ろうと誘われて, 来るのを待っていたら, その友達は何も言わずに帰っちゃって。すごく腹が立ちました。 ・あれっ, えりさんにも事情があったのか。 ・一度, 電話していたんだね。でも, 気付かないよな。 ・お互いに理由があったのか。 ・このようなとき, どうすればよいのだろう。 ・よし子の立場では, どうすればよいのだろう。 	<p>○説明「今日のお話は、『すれちがい』というお話です」</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 挿絵を提示しながら, 読み聞かせる。 ※ 読み聞かせるのは, えりさんがピアノの先生の家に来てきたところまで。 ※ 読み聞かせた後, キーワードを提示して状況把握ができるようにする。 <p>○発問「自分だったら, どうしますか。それは, なぜですか」 【働き掛け1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 考えをワークシートに記述させる。 <p>○説明「実はね, よし子さんはこのようにしました」</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 飯田よし子の日記を, 最後まで読み聞かせる。 <p>○発問「よし子さんは, 知らん顔をしたのです。やはり, かなり怒っているのですね。このときの, 飯田よし子さんの怒る気持ち, 分かりますか」</p> <p>○補助発問「なぜ, 気持ちが分かるのですか。本当に頭にくるものなのでしょうか」</p> <p>○説明「実は, えりさんにも日記を書いていたのです。えりさんの日記も読んでみますね」</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 挿絵を提示しながら, えり子の日記を最後まで読み聞かせる。 ※ 読み聞かせた後, キーワードを提示して状況把握ができるようにする。
<p>2 二人の日記を知り, 感じたこと, 考えたことを出し合い, 学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらにも, 言い分があるのだなと思います。でも, ちゃんと話をしていないから, 分らないまま。このままでは, だめだと思えます。 ・よし子さんは, 勝手に約束を決めたことがよくないなと思います。 ・こういうことは, よくあることだなと思いました。 ・お互いに話をしないと解決しないなと思いました。 ・どっちもどっちだなと思いました。 ・どのようなことをみんなで話し合いたいですか? ・このあと, どうしたらよいのかについて話し合いたいです。どうしてかと言うと, 友 	<p>○発問「二人の日記を知って, どのようなことを感じ, どのようなことを考えていますか」 【働き掛け2-①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 「よくあること」という発言があった場合には, 具体的に話すように促す。 ※ 発言は, 次のことに留意して板書する。【発言の分類】 ・原因について考えている。 ・どちらが悪いのかについて考えている。 ・このような状況にならないように, どうしたらよいのかを考えている。 ・この後, どうしたらよいのか, 関係を修復するこりについて考えている。 ☆ 「えりか, よし子, どの立場に立った考えなのか」「経験を想起して考えたのか」「立場や発言の内容を発言者に確認しながら板書する。

- 達なので喧嘩をしたままだとだめだと思
かからず。にもこういう経験はありますか？
- ・みなさんにも約束をしていたのに黙って破
られたことがありました。あのときは、本
当に腹が立ちました。たのですか？
 - ・そのあと、どうしたのですか？
 - ・仲直りしました、時間がかかりました。
 - ・なぜ、このようなことが起こったのかにつ
いて話したいです。
 - ・どうして？
 - ・どうなっ原因が分かれば、これから同じ
ようなことにならないと思うからです。
 - ・確かに。

【A グループ】
・ぼくたちが考えたいことは、このあとどう
したらよいかということ。このま
はダメだと思、何とか解決できる方
法を考えたいと思ったからです。

【B グループ】
・私たちは、なぜ、こうなってしまったのか
について考えたいと思、原因が分
かれば、これからに生かせると思、
かからず。

【C グループ】
・ぼくたちのグループは、どうしたらこのよ
うなことにならないのかについて話し合
たいと思、解決策を考えれば、こ
れからに生かせると思、かからず。

- ・どうしたら、このようなことにならないの
か。自分にも同じようなことがあったので、
こういうことにならないためにはどうした
らよいかをみんなで話し合いたいです。

・私が考えていること以外にも、いろいろな
考え方があったのだと思、かからず。


- ・どうしたら、友達とすれちがわないのか。
私は、相手のことを考えればよいと思、
かからず。明日は、みんなとたくさん話し合
いたいです。

- 発問「みんなでどのようなことを話し合
いたいですか。グループで問いを出し
てみましょう」
- 指示「なぜ、そのことを考えたいのか、理
由も合わせて話し合、かからず」

※ 哲学対話の形態をとらせる。

☆哲学対話で大切なこと☆

- ・決めた問いに対して何を言ってもよい。
- ・人をちやかすようなことは言わない。
- ・発言しないで聴いて考えているだけでもよい。
- ・自分の考えを途中で変えてもよい。
- ・自分の**思ったことを自分の経験などにそくして考える。**
- ・お互いに**問いを投げかけ合う**ようにする。
- ・**考えを深めるための鍵**を使って対話をする。
- ・最後に**全体で結論を出さなくてもよい。**
- ・最後まで、相手の話を聴く。
- ・相手の考えを否定しない。反論はよい。



考えを深めるための鍵

Q. それってどういうこと？

Q. なぜ？ どうして？

Q. それって本当かな？

Q. その考えはどこからきたの？

Q. この意見の根っこには、
どんな考えがあるのだろう？

Q. 例えば？

Q. そうじゃない場合は、どうかな？

Q. 別の立場になって考えてみたら、どうかな？

※ 哲学対話：10分程度時間をとる。

- 指示「各グループでどのような話をしたの
か紹介してください」
- ※ 振り返りのときには、学級全体で一つの
円になる。

○発問「これから、みんなでじっくりと考
えていきたいことはどのようなこと
ですか」

【働き掛け2-②】
※ 話し合ったことを発表する時間を設定す
る。このとき、理由も発言するように指示
する。

どうしたら、このようなことにならない
のか。(学習課題)

○指示「今日の学習で考えたことや、哲学対
話の問いについての自分の考えを書
きましょう」

※ 個人の考えや問いをワークシートに記述
するよう指示する。

○説明「明日は、このことについてみんな
でじっくり考えていきましょう」

(3) 評価

「相互理解、寛容」の本質(相手の話を聞いたり、相手の事情を押し量ったりして理解し
ようとする、相手の言動が自分の期待と異なったときに広い心で受け止めること)や意義(「相
互理解、寛容」の大切さ)に着目し、多面的・多角的に考えたり、経験を基に考えたりする
という「見方・考え方」を働かせているかを記述や発言から評価する。